

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370475

研究課題名(和文) バントゥ諸語における名詞修飾形式と意味関係に関する記述言語学的研究

研究課題名(英文) Descriptive study of noun modifying clauses in Bantu languages: their form and semantic relation

研究代表者

米田 信子 (Yoneda, Nobuko)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：90352955

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：バントゥ諸語には類似した構造の名詞修飾節が見られるが、それらが修飾できる名詞との意味関係の範囲は言語によって異なっている。バントゥ諸語は名詞修飾節の形式と主名詞との意味関係によって、(1)主名詞と修飾部の関係によって異なる形式が用いられる言語、(2)主名詞と修飾部の関係に関係なく同じ形式が用いられる言語、(3)「内の関係」と「外の関係」だけでなく主名詞が修飾節の主語の場合とそれ以外の場合で異なる形式が用いられる言語、(4)主名詞が修飾節の主語の場合のみ異なる形式が用いられる言語、(5)内の関係の名詞のみ修飾できる形式とどんな関係の名詞でも修飾できる形式の両方を持つ言語、の5タイプに分けられる。

研究成果の概要(英文)：Noun modifying clauses display similar structures across a number of Bantu languages. However, which nouns can be modified by these noun modifying constructions is not uniform across the relevant languages. The following five types of relationship between the form of noun modifying clause and the semantic relations with the head noun can be observed in Bantu languages; (1) a different form is used depending on the semantic relation between the head noun and the modifying clause, (2) the same form is used regardless of the semantic relation between the head noun and the modifying clause, (3) a different form is used depending not only on inner and outer relations but also on the grammatical relation, (4) the same form is used for all semantic relations except the relativation of the subject, (5) forms which can modify only the noun in the inner relation and those which can modify any kind of semantic relation co-exist in the language.

研究分野：言語学

キーワード：バントゥ諸語 名詞修飾節 内の関係・外の関係 マイクロバリエーション 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

これまでのアフリカ諸語の研究はいずれもヨーロッパ諸語の視点からのものであり、その結果見逃されてきた現象もある。そのひとつが「外の関係」の名詞修飾である。

日本語の名詞修飾節は、寺村(1975)以来、「内の関係」と「外の関係」に分類されてきた。

### 【内の関係】

修飾節と主名詞の間に格関係がある

- (1) 車を売った男

### 【外の関係】

修飾節と主名詞の間に格関係がない

- ・内容補充関係

修飾節は主名詞の内容説明

- (2) 車を売った(という)事実

- ・相対的關係 (名詞補文)

修飾節と主名詞に因果関係等の関係がある

- (3) 車を売ったお金

「内の関係」とは主名詞が修飾節の動詞の項であり、修飾節の中に主名詞を取り込んだ文を作ることができる関係である。たとえば(1)では、主名詞の「男」を修飾節の主語として取り込んだ「男が車を売った」という文を作ることができる。それに対して主名詞が修飾節の動詞の項ではなく、修飾節の中に取り込むことができない関係が「外の関係」である。外の関係はさらに「内容補充関係(名詞補文)」と「相対的關係」に分けることができる。内容補充関係とは、修飾節が主名詞の具体的な内容を説明している場合である。上記の例では(2)がこれにあたる。(2)では、修飾節「車を売った」が主名詞「うわさ」の具体的な内容である。相対的關係とは、修飾節が表す内容と主名詞とのあいだに何らかの相対的な関係が存在する場合で、上記の例では(3)がこれにあたる。(3)の主名詞「お金」は修飾節「車を売った」の結果として生じたもので、主名詞と修飾節のあいだには因果関係という相対的な関係が存在している。

日本語の名詞修飾節に関する研究は、類型論に対する日本語学の重要な貢献のひとつであるとされている。しかしながら、日本語学から出てきた「内の関係/外の関係」という概念がアフリカ諸語の研究に適用されることはなかった。アフリカ諸語の中で最も研究が進んでいるバントゥ諸語に関しても同様である。

バントゥ諸語はアフリカ大陸赤道以南に広く分布しているが、その広い分布の割に類似性が高いと言われてきた。名詞修飾節に関しても、これまでの記述研究によって多くのバントゥ諸語に類似した構造の名詞修飾節が存在することが明らかになっている。しかしながら、そこで扱われているのは、一般的に「関係節」と呼ばれる範囲、すなわち「内の関係」だけであり、それらの名詞修飾節が「外の関係」にある名詞を修飾することができるかどうかについては、まったくわかっていなかった。

そこで2種類の形式を持つスワヒリ語の名詞修飾節について調べたところ、*amba-less* 関係節と呼ばれる構文は「内の関係」の名詞しか修飾できないのに対し、もう一つの *amba* 関係節と呼ばれる構文のほうは「内関係」だけでなく「外関係」の名詞も修飾できることがわかった。これまでこの2種類の名詞修飾節の違いは、語順や共起できるテンス・アスペクト接辞の制限の有無であるとされてきた。ところが「内関係/外関係」という日本語研究の視点を取り入れることで、2種類の名詞修飾節には、これまで言われてきた違い以外に、修飾できる名詞の意味関係の範囲にも違いがあることが明らかになったのである。

既述のとおりバントゥ諸語は他のアフリカ諸語に比べると研究が進んでいる。そのなかでもスワヒリ語は最も研究が進んでいる言語のひとつであるが、そのような言語でさえ、名詞修飾節に見られる極めて重要な違いがこれまで明らかになっていなかった。この背景には、アフリカ諸語の研究がヨーロッパ諸語の視点からしか行われてこなかったという事実が無関係ではないはずである。

そこで、ヨーロッパ諸語以外の視点からア

フリカ諸語を見ることによって、アフリカ諸語研究の新たな展開が可能になると考えた。その具体的な取り組みとして、日本語研究の視点を積極的に取り入れ、特に「外の関係」の名詞修飾に注目しつつ、バントゥ諸語の名詞修飾節の形式およびそれぞれの形式における主名詞と修飾節の意味関係を調査分析する本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、これまでヨーロッパ諸語の視点からのみ行われてきたバントゥ諸語研究に、日本語研究の成果のひとつである「内の関係 / 外の関係」の概念を取り入れ、より広い視野からバントゥ諸語の名詞修飾節を捉えなおし、バントゥ諸語の名詞修飾節の形式と意味の関係を網羅的に記述することである。特にこれまでまったく扱われることがなかった「外の関係」の名詞の修飾を重点的に調べる。

具体的には次の点を明らかにする。

- (1) どのような名詞修飾の形式が存在するか
- (2) それぞれの形式には、主名詞と修飾節の意味関係がどのように関与しているか
- (3) 具体的にどのような「外の関係」を主名詞にとることができるか
- (4) 意味関係以外の要素が名詞修飾節の形式にどのように関与しているか

対象とするバントゥ諸語に関してこれらを明らかにし、バントゥ諸語の名詞修飾の形式と意味の関係の類型化を試みる。主な対象言語は、スワヒリ語、ジャンビア二語、ケレウエ語（以上タンザニア）、ヘレロ語、ンドンガ語、クワニャマ語（ナミビア）、ベンバ語、ニャンジャ語（ザンビア）の 8 つのバントゥ諸語である。

さらに本研究を複文の総合的な研究に発展させていくことを念頭に、他の従属節との関連・連続性、特に内容補充関係(名詞補文)に用いられる形式と動詞補文との連続性を明らかにすることを目指す。

## 3. 研究の方法

本研究において最も重要なのはデータの

収集であり、これが本研究の中心となる。具体的には(1)で示すような方法でデータを収集し、分析と類型化を行う。

### (1) データ収集

スワヒリ語・ヘレロ語：すでに申請者がデータをある程度集めているスワヒリ語とヘレロ語に関しては、それらのデータの見直しを行うと同時に、これらの言語で書かれた民話などのテキストから名詞修飾節を抜き出す。

それ以外の言語：スワヒリ語とヘレロ語以外の言語に関しては、文法書や文法スケッチ等から名詞修飾節に関する情報を収集する。先行研究で扱われている名詞修飾節は「内の関係」に限られるが、民話や聖書などのテキストからは内容補充関係の名詞修飾の例が見つかる可能性があるので、テキストデータの確認をする。

現地調査：スワヒリ語とヘレロ語も含め、タンザニア、ナミビア、ザンビアにおいて現地調査を行ない、主な対象言語である 8 言語のデータを収集する。

研究協力者からのデータ提供：国内研究会や国際ワークショップを開催し、国内外のバントゥ諸語研究者からデータ提供をしてもらう。

### (2) 分析と類型化

収集した各言語のデータからそれぞれの言語について以下のことを明らかにし、類型化を試みる。

#### 名詞修飾の形式

各形式で修飾が可能な主名詞と修飾部の意味関係

「外の関係」として修飾が可能な関係主名詞と修飾部の意味関係以外の関与

さらに、これらの分析結果を国内外で発表して意見交換を行うとともに、他のバントゥ諸語のデータ協力を要請する。

## 4. 研究成果

### (1) データ収集

3 年間にタンザニア、ナミビア、ザンビアにおいて、研究代表者の米田が 3 回、研究協

力者の小野田と牧野がそれぞれ1回ずつ、計5回の現地調査を行なった。主な対象言語として計画していたスワヒリ語、ジャンビアニ語、ケレウエ語、ヘレロ語、ソンドンガ語、クワニヤマ語、ベンバ語、ニャンジャ語の8言語に加え、ヤオ語、シファ語(タンザニア)とランバ語、トンガ語、ララ語(ザンビア)についても、データを収集することができた。

文献調査では、文法記述からのデータ収集の他、出身地・世代が異なるタンザニア人作家によるスワヒリ語小説のなかから2種類の名詞修飾節 *amba* 関係節と *amba-less* 関係節の例を収集した。

## (2) 調査結果

本研究の結果、バントゥ諸語の名詞修飾節は、構造は類似していても、修飾できる主名詞との意味関係の範囲は言語によって異なっていることがわかってきた。また「内の関係」と「外の関係」の区別だけでなく、「内の関係」のなかでも主名詞が修飾節の主語にあたる場合は、それ以外の場合と異なる形式が用いられる言語が少なくないことも明らかになった。

具体的には、現在のところバントゥ諸語の名詞修飾節の形式と意味関係に以下のようなタイプが存在することがわかった。

主名詞と修飾節の関係によって異なる形式が用いられる言語(ex. ヘレロ語)

主名詞と修飾節の関係に関わらず同じ形式が用いられる言語(ex. ジャンビアニ語)「内の関係」と「外の関係」だけでなく「内の関係」でも主名詞が修飾節の主語の場合とそれ以外の場合で異なる形式を用いる言語(ex. ケレウエ語)

主名詞が修飾節の主語の場合のみ異なる形式が用いられ、それ以外は「内の関係」も「外の関係」も同じ形式が用いられる言語(ex. ニャンジャ語)

どの関係も修飾できる形式と「内の関係」のみ修飾する形式の両方を持つ言語(ex. スワヒリ語)

## (3) 成果のインパクトと今後の展開

これら結果については、2016年5月にロ

ンドン大学の言語学セミナーで発表し、現在論文にまとめているところである。また2016年6月にはヘルシンキ大学で開催される第6回国際バントゥ諸語学会で発表することが決まっている。

2013年度と2014年度はロンドン大学において、2015年は京都大学において、国内外の研究協力者たちと共に国際ワークショップを開催した。これらのワークショップでは、これまで対象としてきたバントゥ諸語のデータを共有した。さらに今後の研究への展開の可能性について検討し、共同研究の具体的な計画を立てた。

現在、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)を拠点に、バントゥ諸語の形態統語現象に関するマイクロバリエーション研究の国際プロジェクト(以下SOASプロジェクト)が進められているが、本研究結果をもとに関係節の修飾可能な範囲がSOASプロジェクトのマイクロバリエーション研究のパラメーターとして加えられることになった。SOASプロジェクトのパラメーターは、今後のバントゥ諸語の調査項目のプロト的なものとして位置づけることを目指しており、そのパラメーターに加えられたことによって、今後さらに多くのバントゥ諸語の名詞修飾節のデータが集まることが期待される。

成果発表の詳細については「5. 主な発表論文等」を参照のこと。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

- (1) Yoneda, Nobuko. “Event integration patterns in Herero: The case of motion event components.” *Asia and Africa Languages and Linguistics*. 査読有, 10, 2016, 219-244.
- (2) 米田信子. 「スワヒリ語における『～ハ～ガ』構文および類似した構文について」『スワヒリ&アフリカ研究』査読有, 27, 2016, 17-36.
- (3) 米田信子. 「スワヒリ語の場所格の主題化」『日本語学』査読無, 34(12), 2015, 68-76.

- (4) 米田信子 .「バントゥ諸語における自他動詞の派生関係 - スワヒリ語・マテンゴ語・ヘレロ語の場合 - 」『スワヒリ&アフリカ研究』 査読有, 25, 2014, 54-65.

〔学会発表〕(計 9 件)

- (1) Yoneda, Nobuko. “Noun-modifying construction in Bantu languages: the forms and the head-modifier relation.” The 6th International Conference on Bantu Languages. 16 年 6 月 22 日(採択決定), ヘルシンキ大学 (ヘルシンキ, フィンランド).
- (2) Yoneda, Nobuko. “The integration patterns of motion event components in Herero (Bantu, R31)” The 8th World Congress of African Linguistics . 2015 年 8 月 23 日, 京都大学 (京都).
- (3) Kawachi, Kazuhioro, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Nobuko Yoneda & Hiroshi Yoshino. “How African languages fit in Talmy’s typology of event integration” The 13th International Cognitive Linguistics Conference. 2015 年 7 月 24 日, ノーザンブリア大学 (ニューカッスル, 英国).
- (4) Kawachi, Kazuhioro, Yuko Abe, Osamu Hieda, Kyoko Koga, Junko Komori, Nobuko Yoneda & Hiroshi Yoshino. “Motion expression patterns in African languages” (ポスター発表) NINJAL International Symposium on Typology and Cognition in Motion Event Description. 2015 年 1 月 25 日, 国立国語研究所 (東京).
- (5) 米田信子 .「ヘレロ語 (バントゥ R31)における語のプロソディと文レベルの現象」日本言語学会第 149 回大会, 2014 年 11 月 15 日, 愛媛大学 (愛媛).
- (6) Yoneda, Nobuko. “Conjoint/ Disjoint Distinction in Matengo (N13)” The 2nd International Workshop on Bantu Languages. 2014 年 3 月 1 日, ロンドン大学 SOAS (ロンドン, 英国).
- (7) 米田信子 .「スワヒリ語におけるアクセント・フレーズ」日本アフリカ学会第 50 回学術大会, 2013 年 5 月 25 日, 東京大学駒場キャンパス (東京).

〔図書〕(計 5 件)

- (1) Pardeshi, Prashant & Taro Kageyama

(eds), Nobuko Yoneda 他 35 名. Berlin: Mouton de Gruyter. *The Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*. (担当: “Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese”) (2017 年発行予定).

- (2) Hyman, Larry & Jenneke. van der Wal (eds.), Koen Bostoer, Toni Cook, Denis Creissels, Maud Devos, Ines Fiedler, Hannah Gibson, Claire Halpert, Andriana Koumbarou, Nancy C. Kula, Sophie Manus, Lutz Marten, Yukiko Morimoto, Jean Paul Ngoboka, Ernest Nshemezimana, Nobuko Yoneda, Jochen Zeller, Sabine Zerbin. Berlin: Mouton de Gruyter. *The conjoint /disjoint alternation in Bantu*. (担当: “Conjoint/ Disjoint Distinction and Focus in Matengo (N13)”) (2016 年 12 月発行予定).
- (3) パルテシ, プラシャント, ハイコ ナロック, 桐生和幸(編), 赤瀬川史朗, 岸本秀樹, 佐々木冠, 當山奈那, 呉人恵, 風間伸次郎, 円山拓子, 梅谷博之, 白井聡子, 新田志穂, 栗林裕, 大崎紀子, 長屋尚典, 高橋清子, 大西秀幸, 松瀬育子, 西岡美樹, ピーター・エドウィン・フック, 萬宮健策, 吉岡乾, 梶茂樹, 米田信子, 櫻井映子, 江口清子, 大島一, 入江浩司, 影山太郎. 東京: くろしお出版 『有対動詞の通言語的研究』 2015. 488 頁, (担当: pp.351-368. 「スワヒリ語における有対動詞: 派生の形式と動詞の意味を中心に」).
- (4) 益岡隆志, 大島資生, 橋本修, 堀江薫, 前田直子, 丸山岳彦(編), 天野みどり, 坪本篤朗, 松木正恵, 前田直子, 高橋美奈子, 井島正博, 高山善行, 宮地朝子, 岩田美穂, 福嶋健伸, 蓮沼昭子, 長辻幸, 加藤重広, 松本善子, 下地早智子, 米田信子, 金廷珉, 大堀壽夫, 江口正. 東京: ひつじ書房 『日本語複文構文の研究』 2014, 736 頁. (担当: pp.617-643. 「バントゥ諸語における名詞修飾節の形式と意味」).

6 . 研究組織

(1)研究代表者

米田 信子 (Yoneda Nobuko)

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号: 90352955